

調査の概要

1 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 相模原市全域
- (2) 調査対象 18歳以上の相模原市在住者
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (5) 調査方法 郵送調査法（郵送配付 - 郵送回収、はがきによる督促1回）
- (6) 調査期間 平成30年5月28日～6月18日
- (7) 調査機関 株式会社地域環境計画
- (8) 有効回収数（率） 1,459（48.6%）

3 調査の内容

平成30年度 市政に関する世論調査は、7の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 広報について	問1～問4
2 ひばり放送について	問5～問8
3 自転車の安全利用について	問9～問14
4 パブリックアート「呼ぶ 赤い手 青い手」の活用について	問15～問17
5 津久井産材について	問18～問21
6 多文化共生について	問22～問26
7 市職員の接遇について	問27～問28
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

4 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	308	161	52.3%
	大沢	143	66	46.2%
	城山	34	22	64.7%
	津久井	95	54	56.8%
	相模湖	105	55	52.4%
	藤野	36	15	41.7%
	緑区計	721	373	51.7%
中央区	小山	88	43	48.9%
	清新	128	38	29.7%
	横山	63	25	39.7%
	中央	146	135	92.5%
	星が丘	75	39	52.0%
	光が丘	115	46	40.0%
	大野北	246	100	40.7%
	田名	129	55	42.6%
	上溝	142	58	40.8%
	中央区計	1,132	539	47.6%
南区	大野中	262	91	34.7%
	大野南	318	187	58.8%
	麻溝	73	40	54.8%
	新磯	55	33	60.0%
	相模台	187	77	41.2%
	相武台	85	28	32.9%
	東林	167	76	45.5%
	南区計	1,147	532	46.4%
地区不明		0	15	-
合計		3,000	1,459	48.6%

6 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、()内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,459である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.62以内(47.38%~52.62%)とみることができる。

< 標準誤差の表 >

回答比率 回答者数	10 % または 90%程度	20 % または 80%程度	30 % または 70%程度	40 % または 60%程度	50%程度
1,459	±1.57	±2.09	±2.40	±2.57	±2.62

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。